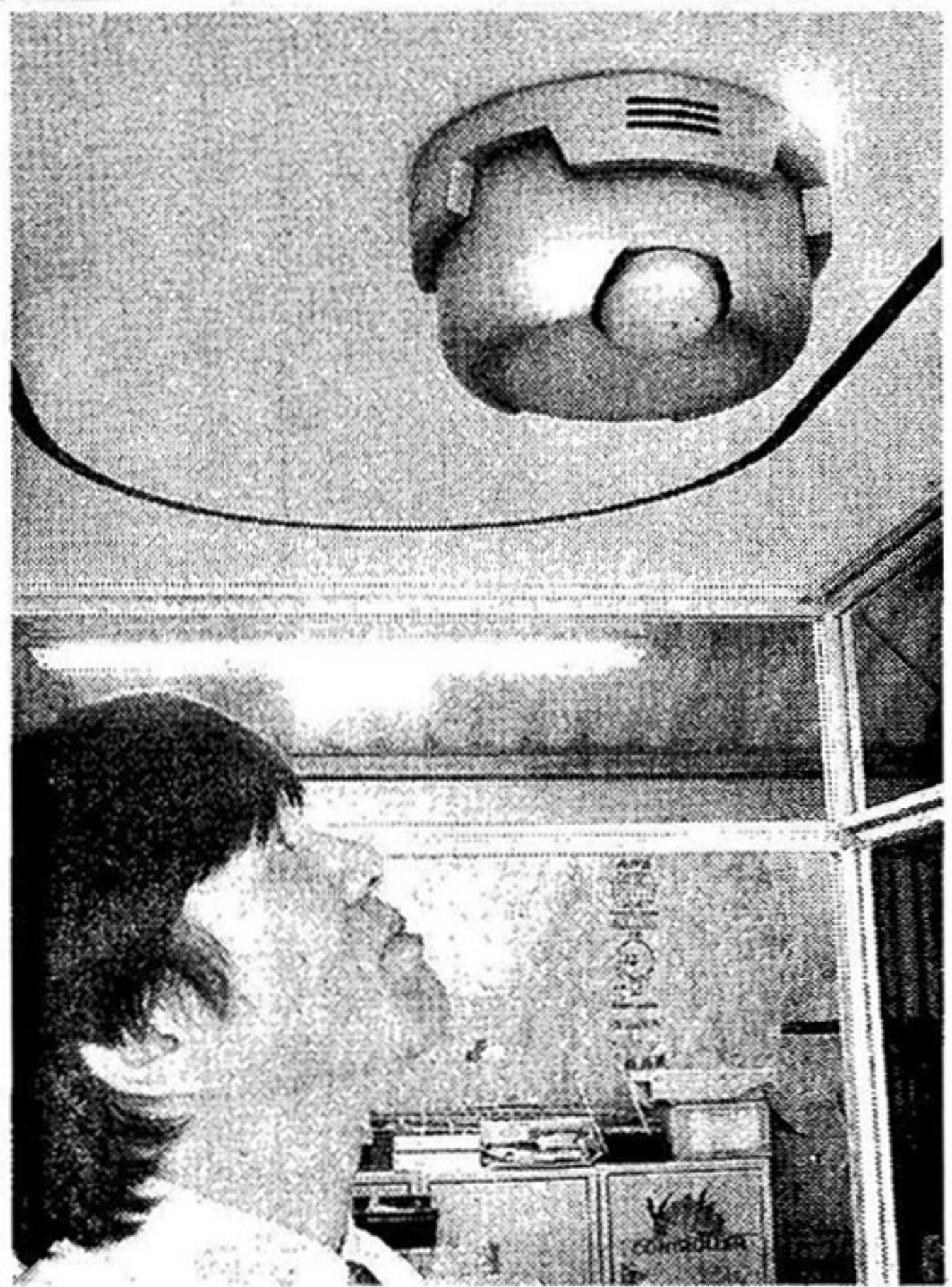


天井を自動走行する初期火災検知ロボット



蛍光灯などの障害物にぶつかる
と、自在に
走行方向を
変え、鉄板
が敷かれた
範囲内を動
き回る。ス
ーパーなど
夜に人がい
ない店舗の
火災警戒の

天井走行ロボ開発

アンテックとロボトピア 初期火災検知し通報

携帯電話などへメールで知らせる。

本体は直径二十六センチの円形で、重さ三・二キログラム。アンテックが開発した、炎に含まれる紫外線を太陽光の紫外線と見分けて検知する丸形センサー（直径七センチ）や、データ通信器などを搭載。天井に接する部分は、三六〇度自由に回転したり前後進するよう工夫した車輪と磁石を装備している。

ほか、昼間は垂れ幕をつるして店内を移動するデモンストレーションなどの用途が想定されている。

ロボットは七、八日に岡山県卸センターオレンジホール（岡山市問屋町）で開かれる電気設備機器の見本市に出展する。アンテックは「火災検知センサーは壁などに固定するだけでなく、移動式で活用する方法もあることを知ってほしい」としている。

新社名「ヨード」

ファインケム マナックなど3社設立

臭素化合物製造のマナック（福山市西町）は五日、ヨウ素製造の合同資源産業（東京）、三井物産（同）との共同出資による新会社の社名が「ヨード・ファインケム」（同）に決まり、一日に設立したと発表した。

新会社は資本金一千万円

円で、マナックと合同資源産業が各45%、三井物産が10%出資。本社は合同資源産業の中に置き、社長には同社の館良男取締役が就任。ヨウ素関連製品の製造販売を業務とし、「二〇一〇年までに年間売上高十億円を目指す」（マナック）としている。

陶芸窯の温度制御器など開発のアンテック（岡山県邑久町）と、ロボトピア製作のロボトピア（東京）は共同で、夜間無人になる店舗などの天井を自動で移動し、初期火災を検知する天井走行ロボットを開発した。ロボットは、天井に敷かれた鉄板に磁力で吸いつきながら動き、異常があれば携